

## 医療安全ニュースレター発行に際して

院長 田中宣威

この度、医療安全管理委員会が中心となり医療安全管理ニュースレターを発行することになりました。どのようなニュースレターになるのか楽しみです。同時に長くつづくことを期待します。継続することが大事であり、それが院内の安全管理につながっていくことと思います。

病院における医療安全とは何か。

病院で働くスタッフ一人ひとりが院内の安全に認識をもち、安全に基づいた行動を普段から行うことができることだろうと思います。また院内ではチーム医療が主体となってきています。組織としての医療安全をどのように保っていくのか。医療安全に関する情報をできるだけ多く、院内のスタッフに伝えていけるようになったらいいなと考えています。

## 医療安全ニュースレターの発刊を心から喜びたいと思います。

内科 水野杏一

今、社会より医療に求められているのは、総合臨床医の育成や高度医療のみならず、安全、安心の医療と思われまます。特に、高度先進医療を行う大学付属病院では、特に患者さんが安全に安心して治療が受けられる組織を今以上に作っていく必要があります。個人が安全、安心の医療を行うことは勿論、病院が率先して安全の体制を確立していく所存です。本レターがその一翼を担うことを切望します。

エマージェンシーコール  
(コード北総専用回線)  
は、『内線4444』



## 医療安全管理ニュースレター

(第1回)

発行：平成19年3月2日(金)

### 医療安全管理委員会から

医療安全管理委員会

委員長 藤野 修

当委員会は医療安全管理部の統括を受ける各種委員会のひとつに位置し、名称が示すように医療安全に関すること全てを扱っています。しかし「医療」と名はついていても患者さんのインシデント・アクシデントのほか全ての職種の職員の安全について議論することもあり、分野を問わず安全に関すること全てが対象です。院長、2人の副院長、事務長も委員に加わっています。具体的な事例は安全管理小委員会で討議します。所属長やリスクマネージャーに、あるいは小委員会、委員会に直接でも構いませんので何でもお寄せ下さい。

### 医療安全ニュースレター発行に際して

医療安全管理部

医療安全管理者(兼務)

看護師長 遠藤 みさを

第1回の発行にあたり原稿依頼を頂きまして光栄に思います。

医療安全ニュースレター発行の目的には、

1. 当院におけるインシデント・アクシデントの発生と傾向を全職員が把握し、各個人が再発防止のための活動を行うこと。
2. 部門間を越えた広く横断的に医療安全にかかわる情報を集結・発信をすることで、全職員の医療安全に対する認識を深めると共に、病院全体で医療安全に取り組む組織風土を構築すること。この大きく2つにあると私は考えます。意義のあるニュースレターとなるよう病院医療安全管理を担う一人として微力ではありますが活動できればと思っています。

## なぜ医療安全対策が必要なのか

医療安全管理小委員会

委員長 水成隆之

“納豆がダイエットに絶大な効果がある”と大々的に取り上げたテレビ番組が嘘の情報で塗り固められたものであると判って社会問題となっている。だいたい納豆を食べただけで痩せるわけがないじゃないかと思うが、実際には多くのスーパーで、納豆の売り切れ状態が続いていた。それほどまでに世の中の人々は、こと医療に関して無知であり、マスコミの影響力は絶大なのである。

医療や健康に関するテレビ番組は、視聴率を確実に稼げることもあって、巷にたれ流されている。医療過誤事件などはマスコミの恰好の餌食である。とてもミスとはいえないような出来事まで取り上げて、あたかも正義の味方のような論調で非難を浴びせ、善意に満ち溢れる世間の人々を扇動し騒ぎ立てる。こうなると、いくら日々、自己犠牲の上に正しい医療を行っていても、我々は確実に被告に仕立てられてしまう。

医療過誤かどうかはともかく、事故は確実に、今も、これからも起こる。事故を起こさせない一番の予防策は医療行為を行わないことである。難しい手術はやらない、命にかかわるような救急疾患や治療困難な病気は取り扱わない、転倒しそうな患者様はベッドに縛り付け、誤嚥を起こしそうな患者様の食事は完全にストップする。医療レベルなど関係ない。こうすれば確実に患者様の安全性を高め、事故を減らすことができる。面倒くさい医療安全対策なんかには労力や時間を費やさなくてよくなり、インシデント・アクシデントレポートは減り、残業も少なくなる。

医療行為のレベルと、それに必要な医療安全対策のレベルは正比例する。

難しい状況の患者を何とか助けたいという実践的医療や先端医療にはどうしてもリスクが付きまとう。それでも、こういった高いレベルの医療に携わっていきたいという熱い気持ちを、この病院の職員の誰もが持っていると感じている。

だから、そのために、しっかりとした医療安全対策が必要なのです。